

先生に聞く

進路対策3

経験を活かした進路選択



動物科学研究部とは

動物科学研究部では、動物に興味を持つ生徒たちが放課後や休日を利用して、毎日のように活動しています。主に行っているのは、乳牛の改良や和牛飼育です。

平成29年(2017)12月6日、本校の農場で平成29年度後期牛群審査が行われました。この牛群審査は、日本ホルスタイン協会の審査員が酪農家を巡回し、審査基準(乳房や体格)に則り、得点化(100点満点)する審査です。今回の審査で11頭の乳牛を審査してもらった結果、ボルト号が90点(エクセレント)を獲得できました。乳牛全体となるとエクセレントの割合はごくわずかであり、奇跡の牛とも呼ばれています。本校はこれ

高校生活のなかで得た経験も、進路選択に役立つ。自分の適性を判断する際の材料になるからだ。「部活動での経験は、進路選択にも活かすことができます」と話すのは、群馬県立中之条高校（なかのじょう）の山口愉隆先生。今回は山口先生が顧問を務める動物科学研究部の事例を紹介する。

※群馬県立中之条高校：吾妻（あがつま）高校と統合され、平成30年度より「吾妻中央高校」となる

までに4頭のエクセレント牛が誕生していますが、現存するのはボルト号のみです。この結果は部員にとって大きな励みとなりました。



よい牛を育てるため、毎日の手入れは欠かせません

さまざまな活動が、進路選択のヒントに

動物科学研究部での経験は、進路選択にも役立っています。部員たちからは「酪農後継者として、部活動で酪農に関する

知識や技術を高め、酪農業を継ぐという考えが固まった」「地域の酪農家と接したことにより、酪農業への興味・関心が高まった。そして、将来、地域で活躍したいと考えるようになった」「専門的な活動(乗馬やトリミングなど)をとおして、より専門的な知識や技術を高めたいと思うようになった」などの意見が聞かれます。

酪農や動物に関する進路を選ぶケースが多いですが、なかには「ふれあい動物園などの活動で多くの人と接したこと、人とかかわる職業に就きたいと考えられるようになった」という部員もいます。あらゆる経験をすることで、進路の選択肢は広げられると感じています。平成29年度の卒業生(7名)は、全員が進学を選択。大学(畜産学部、循環農学類)、短期大学(栄養専攻)、農林大学校、専門学校(動物看護コース、歯科衛生士学科、ドッグトレーナーコース)に進みました。

部活動をとおして見つけた将来の夢

生物生産科(平成29年度卒業) 中島 桃花さん

部活では、乳牛をはじめとする動物たちの飼育管理や、牛をきれいに洗ったり、調教したりしました。また、毎日のように美野原農場(学校の実験実習地)で活動して牛とかかわったことで、担当する牛との信頼関係を築いてきました。その努力もあり、群馬県の共進会で第1部の1位を獲得できました。

これらの活動をとおして、牛に強く興味を持ち、大学で牛の繁殖や育種について学び、乳牛の改良について深く追求したいと思いました。また、大学卒業後は、酪農後継者を育成する農業系高校の先生になり、多くの生徒たちに酪農の魅力を伝えていきたいです。

美野原農場で毎日活動して牛が大好きになり、進路のことを深く考えるようになりました

